

「小鳥と鏡 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

(2019 年春の記録)

ゴジュウカラは、餌台の鏡に強く反応し、他の野鳥が近寄れないほど、激しく相手(自分)を攻撃していた。もともとカラ類は、木の幹や種子を強くたたくので、鏡をたたいたぐらいで怪我したりはしないが、かわいそうなので、鏡はすぐに撤去した。



コガラも餌台によく来る野鳥だが、やはり鏡に興味があったようだ。餌には手を出さず、鏡から少し離れたところで、不思議そうに自分の姿を見ていた。しかしゴジュウカラのような攻撃性は示さなかった。



シジュウカラの反応は面白かった。野鳥が餌台でさえずることは珍しい。このシジュウカラはたぶんオスなのだろう。自分の姿を見るなり、「ツピーツピー！」と大声で鳴きだした。「ここは自分の縄張りである！」と主張していたのかも知れない。



ヤマガラも反応を示した。静かにじっと見つめている。このあとくちばしで「相手」を攻撃しようとしたが、当然「相手」も攻撃してきたので、びっくりして逃げていってしまった。



最も激しい攻撃性を示したのは「カワラヒワ」だった。「カワラ(河原)」と冠しているが、河原だけでなく、都会地から山地まで広く分布する。



カワラヒワは鏡の中の自分に向かって、激しく威嚇行動を繰り返していた。羽根をバタバタさせて、飛びかかっている。野鳥にとっては、迷惑な話だろうが、今回は面白い生態を観察できた。種類によって攻撃性に差があることもはっきりした。